

2025年度厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)
分担研究報告書

障害者ピアサポート研修の実施内容の検証及び更なる効果的な実施方法の確立に向けた研究
(24GC1004)研究代表者 岩崎 香

分担研究:フォローアップ研修の見直し及びピアサポートの専門性担保の仕組の検討

研究分担者

宮本有紀 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 精神看護学分野

分担研究 研究協力者(五十音順)

秋山 剛 NTT 東日本関東病院
秋山 浩子 特定非営利活動法人自立生活センター日野
安部 恵理子 国立障害者リハビリテーションセンター
飯山 和弘 社会福祉法人じりつ
五十嵐 信亮 竹田総合病院
井谷 重人 CIL 星空
市川 剛 未来の会
一木 崇弘 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座
岩上 洋一 社会福祉法人じりつ
内布 智之 一般社団法人日本メンタルヘルスパイアサポート専門員研修機構
太田 令子 千葉県千葉リハビリテーションセンター
門屋 充朗 特定非営利活動法人十勝障がい者支援センター
彼谷 哲志 特定非営利活動法人あすなる
桐原 尚之 全国「精神病」者集団
小阪 和誠 一般社団法人ソラティオ
齊藤 健 社会福祉法人豊芯会
栄 セツコ 桃山学院大学社会学部
佐々木 理恵 東京大学大学院医学系研究科 医学のダイバーシティ教育研究センター
島津 渡 株式会社真和
四ノ宮 美恵子 障害者支援施設梅ヶ丘自立訓練事業
平良 幸司 社会福祉法人横浜市社会事業協会 横浜市保土ヶ谷区生活支援センター
田中 洋平 社会福祉法人豊芯会
堤 愛子 特定非営利活動法人自立生活センター町田ヒューマンネットワーク
土屋 和子 特定非営利活動法人市民サポートセンター日野
中田 健士 株式会社 MARS
永森 詩織 特定非営利活動法人難病支援ネット・ジャパン/一般社団法人全国膠原病友の会
橋本 早苗 社会福祉法人豊芯会
蛭川 涼子 特定非営利活動法人自立生活センターSTEP えどがわ
又村 あおい 一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会
三原 睦子 認定特定非営利活動法人佐賀県難病支援ネットワーク
三宅 美智 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
矢部 滋也 一般社団法人北海道ピアサポート協会
山口 創生 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

研究要旨：

本研究は、自治体が障害者ピアサポート研修事業をより効果的に実施するために、2020年度より開始された障害者ピアサポート研修の研修カリキュラムの改善点を取りまとめ、提案を行うことを主な目的としている。中でも本分担研究は、フォローアップ研修に焦点を当てる。厚生労働省の「障害者ピアサポート研修事業実施要綱」に示されているフォローアップ研修をどう位置付けるのかを検討するための材料とし、今後の障害者ピアサポート研修事業の推進に寄与することが目的である。

分担研究として、2025年度は、研究協力者によるフォローアップ研修の方向性の検討を行い、フォローアップ研修のシラバス案を作成した。

特に、フォローアップ研修が、ピアサポーターの専門性を担保し高めると共に、質の高いピアサポート活動の取り組みが続けられていくための仕組みとなることを意識して検討がなされた。

本研究は、さまざまな障害を有する人々やその所属団体、自治体など多くの関係者の協力を得て行った。

A. 研究の背景

障害福祉サービス事業等において、障害当事者が職員として雇用され、地域移行や地域生活の支援にかかわることは、当事者主体の実践を促進する重要な取り組みである。その一助となる仕組みの一つが、障害者ピアサポート研修事業である。

本研究事業「障害者ピアサポート研修の実施内容の検証及び更なる効果的な実施方法の確立に向けた研究」は、自治体が障害者ピアサポート研修事業をより効果的に実施できるよう、2020年度より各自治体での開催が開始された障害者ピアサポート研修のカリキュラムについて、改善点を取りまとめ、提案を行うことを主な目的としている。

障害者ピアサポート研修事業は、これまで障害者自身や関係者の尽力により、全国各地の自治体で広く実施されるに至っている。さらに、多くの研究協力者の支援を得て、代表研究者の岩崎、分担研究者の宮本は、障害者ピアサポート研修事業が効果的に運用されることを目指し、以下のような取り組みを進めてきた。

(1) 障害者ピアサポートの専門性を高める研修の開発

実際にピアサポーターとして、あるいは当事者運営組織で活動する障害当事者（以下、当事者）と協働し、「障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修」の開発を行ってきた。この研修は、基礎研修、専門研修、フォローアップ研修で構成され（岩崎ら、2017）、現在の障害者ピアサポート研修事業においてもその枠組みが活用されている。

(2) 研修テキストおよび養成プログラムの作成

基礎研修、専門研修（精神障害版）、フォローアップ研修（精神障害版）のテキスト、ならびに基礎研修のわかりやすい版テキスト、講師・ファシリテーター

養成プログラムが作成された。特に、ファシリテーター養成においては、研修の目的、ピアサポートの理解、ファシリテーター概論、ピアサポート研修特有のファシリテート技法、グループワーク運営、研修運営や講座設計、研修まとめの項目を取り扱うことが重要であることが示されている（岩崎ら、2019）。

(3) オンライン研修・ハイブリッド型研修の試行

COVID-19の影響を受け、当初対面を前提に設計されていた研修を、オンラインやハイブリッド方式で実施する方法が試行された。これに関して、感染リスクを下げつつ移動負担を軽減できる利点、対面グループワークの重要性が報告されている（岩崎ら、2021）。

(4) 合理的配慮と運営ガイドブックの整備

多様な障害のある人たちが参加しやすいよう、合理的配慮に関する指針がまとめられ（岩崎ら、2023）、また、自治体が障害者ピアサポート研修事業を円滑に運営できるよう、「障害者ピアサポート研修事業ガイドブック」が公開された（岩崎ら、2024）。あわせて、研修シラバスや障害統合版の専門研修・フォローアップ研修テキストも作成されている。

こうした取り組みがなされる中、障害福祉サービス等報酬改定では、ピアサポート体制加算およびピアサポート実施加算が導入された。障害者ピアサポート研修の受講は、これら加算の要件となっていることから、効果的な研修の実施はますます重要になっている。

現在、加算要件に含まれるのは、基礎研修および専門研修であり、フォローアップ研修は必須ではない。しかし、障害者ピアサポート研修は基礎研修・専門研

修・フォローアップ研修の一連のプロセスとして設計された経緯があり、フォローアップ研修の受講によって学びがさらに深まることが期待されている。

一方で、予算面などさまざまな要因から、フォローアップ研修を十分に開催できていない自治体が存在することも把握されている。

このため、本研究では、障害者ピアサポート研修のうち、特にフォローアップ研修に焦点を当て、その意義や現状について整理することとした。それに加え、基礎研修、専門研修のカリキュラム見直しに合わせてフォローアップ研修のカリキュラムも見直し、効果的な障害者ピアサポート研修が開催されるための検討材料とすることとなった。

2024年度に引き続き、2025年度も、障害者ピアサポート研修に関わっている身体障害領域、精神障害領域、高次脳機能障害領域、難病領域の障害当事者や支援専門職者に現行のフォローアップ研修に対する意見を聴取して集約した。また、2025年度は、これらをもとにフォローアップ研修の位置づけについて検討し、カリキュラムの見直しに関する方向性を示す目的で、講座計画(シラバス)の案を作成した。

B. 研究目的

本研究の目的は、自治体が障害者ピアサポート研修事業をより効果的に実施できるよう、特にフォローアップ研修に焦点を当て、その位置づけや意義を検討することである。

C. 方法

(1)障害者ピアサポート研修に関わってきた研究協力者からのフォローアップ研修に関する意見の収集

障害者ピアサポート研修に関わってきた身体障害領域、精神障害領域、高次脳機能障害領域、難病領域の障害当事者や支援専門職者である研究協力者にフォローアップ研修についての意見を収集した。

具体的には、フォローアップ研修の研修内容を掲示し、それらの個別項目あるいは全体に対して自由に意見を記入してもらい、または会議の際に口頭で述べてもらう形式とした。記入は、分担研究者の準備したオンライン上の書き込みシート、あるいはエクセルファイル、あるいはメールの、いずれでも回答者が便利なものを

選択して記入してもらった。欄の大きさや把握のしやすさを考慮し、障害領域ごとに書き込み欄を用意した。意見は、個人の回答でも、とりまとめて回答でもどちらでも構わないと伝え記入を依頼した。

2024年度の研究期間であった2024年8月から開始し、その後2026年3月の会議まで、いつでも自由に意見が追加された。

これらの書き込みを参照しながら意見交換を行う会議を重ね、これまでのフォローアップ研修の進行表も参考にしつつ、研究者がシラバス案のドラフトを作成した。さらに、このシラバス案に対して追加の書き込みや意見交換を重ねた。こうした検討過程を通して、フォローアップ研修のねらいや対象、研修に含むべき内容、講座内容案を精査し、本報告書に記載する最終的なシラバス案を作成した。

D. 結果

身体障害領域、高次脳機能障害領域、精神障害領域、難病領域の全ての障害領域からフォローアップ研修に関する意見を得た。障害領域によっては意見を取りまとめた回答もあれば、個人が自由に書き込んだ回答もあった。

2024年度に得ていた意見の論点が整理され、2025年度は特に、フォローアップ研修の位置づけや、フォローアップ研修でねらいとされることについての議論が深まった。

(1)フォローアップ研修のテーマ

フォローアップ研修はどのようなことを目指す研修なのか、フォローアップ研修の受講者としてどのような方たちを対象とするのかの議論がなされた。

議論の結果、フォローアップ研修では、「ピアサポーターとして働き続ける／活動し続ける」、「質の高いピアサポートの取り組みを継続する」がテーマとなることの共通見解が形成された。

(2)フォローアップ研修の対象者

また、フォローアップ研修の参加者としては、本来、基礎研修、専門研修を受講し終えてピアサポーターとして活動している方々をフォローアップするという想定しているものの、全員がピアサポーターとして活動できているとは限らないことや、この研修の性格からして、基礎研修、専門研修を修了していること以外の要件を規定することはできないことが話し合われた。

ただし、要件を規定することはできないまでも、今後フォローアップ研修の研修内容のテキストを作成する際には、ピアサポートに携わった経験のある人を想定してテキストが執筆されることは重要であるとの意見があった。

(3) 研修の内容

上述したフォローアップ研修のテーマや対象者を考慮し、またこれまでのフォローアップ研修で行われてきた講座内容に運営者・講師・ファシリテーターなどさまざまな立場から関わってきた研究協力者らの振り返りから、フォローアップ研修で目指すべき内容として、以下の4つが挙げられた。

- (ア) ピアサポーターが、実践の中で生じる葛藤や課題を一人で抱え込まず、言語化し共有できるようにする
- (イ) ピアサポート活動を支える協働・組織のあり方を理解し、実践に活かせるようになる
- (ウ) ピアサポーターおよび管理者が、活動を「続ける」ための工夫を自分の現場で考えられるようになる
- (エ) 地域においてピアサポート活動を継続・発展させる視点を持つ

そして、具体的に入れると良い講座として、以下のよなものも挙げられた。

- ① これまでの研修の振り返りとフォローアップ研修のねらい
- ② ピアサポーターとして[ピアサポーターと共に]働いての課題・葛藤・喜び
- ③ 障害特性(今後の支援活動に活かすために)
- ④ ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法
- ⑤ 働き続ける[活動を続ける]ために
- ⑥ ピアサポート活動を地域で続ける・交流する・広げるために

なお、それぞれの講座について留意すべきことが議論された。その内容を以下に示す。

- ① これまでの研修の振り返りとフォローアップ研修のねらい
 - フォローアップ研修のテーマや行おうとしていることを研修開始時に伝えることは重要
 - 研修内の各講座の冒頭にも、それまでの講座とのつながりを伝えるとよいだろう
 - R3版シラバスでは要綱には提示してないと注

意書きした上で「ピアサポートの理解」の前に「オリエンテーション」を配置している。「振り返り」に研修自体についての説明を入れるか、あるいは、要綱外の時間で説明するか、基礎・専門・フォローアップで統一した方がよい

② ピアサポーターとして[ピアサポーターと共に]働いての課題・葛藤・喜び

- 実際にピアサポーターとして活動して体験する葛藤についても取り扱うことは重要。
- 活動して葛藤だけではなく、喜びなどについても共有できるとよい
- ピアサポーターだけでなく、ピアサポーターと共に働く管理者も、葛藤や喜びについて話し合えるとよい

③ 障害特性(今後の支援活動に活かすために)

- 障害特性は、基礎・専門の類似コマとの住み分け(狙いの説明)が重要。
 - 現行では障害特性の後に演習がないため、「聞きっぱなし」になりやすい。演習の必要性が議論された。
- 基礎/専門/フォローアップの住み分けの整理案:
 - 基礎(さまざまな障害領域):ピアサポート活動の多様性に触れる
 - 専門(リカバリーストーリー):葛藤やつらさからの変化の兆し等、リカバリーストーリー
 - フォローアップ(障害特性):支援する上で、各人の主観的な困り感・生活のしづらさの違いを学び、思いを馳せる
- 方向性:
 - 自分の領域以外の障害・困りごとの多様性を知り、支援に活かす(主観的な困り感/生活のしづらさへの理解)
 - 「障害名で判断しない」で、共通する生きづらさ等に目を向ける視点も有用
- 留意点:
 - 「全ての障害領域を完璧に理解すべき」という誤解を生まないよう、“知らないことがある”という謙虚さも大事。
 - 自分だけで完結せず、必要時に専門機関・他者と協働する姿勢を育てたい。
 - さまざまな障害領域の登壇者に語ってもらうとよい。その際に、この講座のねらい(今後の支援活動に活かすこと)を伝え、基礎研修の狙いとは異なることを運営企

画委員が理解しておくと同時に、登壇者への依頼時にも伝える必要がある

- 登壇者の語りによる「障害」が、医学モデルによる障害（機能障害）か、あるいは、社会モデルによる障害なのか、受講者に伝わりやすく説明されると良い
- 障害の「困りごと」は具体的な課題や悩みを連想させるが、そこから起因するライフステージへの影響についてもこの講義で取り上げられると良い。「生きづらさ、困りごと」などと表現することもありえる

- 演習の方向：

- 深掘り型よりも、まずは感想の共有（知らなかった／共通点があった等）など、学びを言語化して共有する形式が現実的、という意見も

④ ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法

- 「効果的なコミュニケーション技法」という項目名は、ノウハウ偏重に見えやすいため再検討が必要ではないか、との指摘があった。
- 意図（利用者理解、協働・組織内コミュニケーションの在り方）に沿うよう、名称の工夫が必要との意見。
- 「協働」は研修内で扱えるコマに限られる可能性があり、この箇所での扱いが特に重要との意見があった。
- 他方で「利用者理解の深め方」を一つの型として提示しすぎると、たとえばソーシャルワーカーなど専門職的な講義に寄る懸念もあり、どの程度まで示すかは追加議論が必要との整理もなされた。
- 内容自体は重要だが、タイトル・配置を含めて整理する。

⑤ 働き続ける[活動を続ける]ために

- セルフマネジメント等の「個人の工夫」だけに寄ることは避けたい、という指摘。
- 個人・職場（組織）・地域／社会の複数の軸で考えられるようにする案が提示された。
- いくつかの自治体では、当事者の話の前に短いオリエンテーション（視点提示）を入れると理解が進んだという実例が共有された。

⑥ ピアサポート活動を地域で続ける・交流する・広げるために

- 最終コマとして、今後の活動やつながりを考え、研修の節目を共有できる場として意義がある、という整理。
- 一方で、研修の本質は「支援の先にいる当事者（利用者）の幸せ」に還元する人材育成であり、最後が「交流・拡大」に寄りすぎると研修の緊張感や焦点がぼやける懸念も提示された
- 当事者が交流や活動づくりに主体的に関わる視点を明示する必要が共有された
- この最終コマについては、ワークショップとしておき、テーマ例を複数提示しておき、自治体ごとに選んだり自分たちで設定できるようにしておく。テーマ例；
 - 「地域で続ける／交流する／広げる」
 - 「支援の本質を深める」等

(4) シラバス案

上記検討内容をもとに、フォローアップ研修_講座計画(シラバス)(案)が作成された。その主たる内容は以下である。また、シラバス案の全体像は、この報告書の末尾に示す。

1. 位置づけ

本研修は、基礎研修・専門研修を修了した者を対象に、ピアサポート活動を「続ける」ことを支えるための研修である。

2. テーマ

質の高いピアサポート活動の取り組みが続けられていくこと

3. ねらい

1. ピアサポーターが、実践の中で生じる葛藤や課題を一人で抱え込まず、言語化し共有できるようにする
2. ピアサポート活動を支える協働・組織のあり方を理解し、実践に活かせるようになる
3. ピアサポーターおよび管理者が、活動を「続ける」ための工夫を自分の現場で考えられるようになる
4. 地域においてピアサポート活動を継続・発展させる視点を持つ

4. 研修の流れ

本研修では、ピアサポート実践の振り返りから始まり、葛藤や課題の共有、多様な障害理解、協働のあり方を経て、「働き続ける／活動を続ける」ための具体的な視点を獲得し、最終的に地域での実践に

つなげることを目指す。

5. 受講対象者

- ・基礎研修、専門研修を修了している者
- ※本研修は、ピアサポートに携わった、または関わった経験を踏まえた学びを想定しているため、当該経験を有することが望ましい（経験があることで、より具体的な学びが期待される）

6. フォローアップ研修 講座進行案（合計 540 分）

<実践の振り返りと共有>

- 1 ピアサポート研修の振り返りとフォローアップ研修について（講義）（30分）
- 2 ピアサポート活動の課題・葛藤や喜び（講義）（30分）
- 3 ピアサポート活動の課題・葛藤や喜び（演習）（60分）

<理解を広げる>

- 4 障害の多様性を学び支援に活かす（講義）（60分）
- 5 障害の多様性を学び支援に活かす（演習）（50分）

<協働と組織>

- 6 協働や組織内コミュニケーションのあり方（講義）（40分）
- 7 協働や組織内コミュニケーションのあり方（演習）（90分）

<継続する力>

- 8 「働き続ける／活動を続ける」ために（講義）（30分）
- 9 「働き続ける／活動を続ける」ために（演習）（60分）

<地域での展開>

- 10 ピアサポート活動を地域で続ける・交流する・広げるために（演習）（60分）
- 11 企画発表・研修総括（演習）（30分）

それぞれの講座の内容やねらい、講座での到達目標、実施方法や備考は、巻末のシラバス案内に記載した。

E. 考察

本研究では、障害者ピアサポート研修のうちフォローアップ研修について議論を深め、研修シラバス案を作成した。

特に、フォローアップ研修が、ピアサポーターの専門性を担保し高めると共に、質の高いピアサポート活動が継続されていくための仕組みとなることを意識して検討がなされた。また、フォローアップ研修については、自治体により開催方法や内容、参加者数、参加率にばらつきがあることがわかっており、研修開催地の実情に応じて演習の内容を選べるようにするなどの工夫がなされた。

F. 健康危険情報

無

H. 研究発表

無

I. 知的財産権の出願・登録状況

無

J. 文献

岩崎香，秋山剛，山口創生，他：障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修の構築．日本精神科病院協会雑誌 36:990-995, 2017

岩崎香（研究代表者）．厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業．障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に係る講師を担える人材の養成及び普及のための研究 2018（平成30）年度，2019

岩崎香（研究代表者）．厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業．障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に係る講師を担える人材の養成及び普及のための研究 分担研究報告書：ピアサポートの専門性を高めるための研修を担う人材育成のためのプログラムの構築（分担研究者宮本有紀）2020（令和2）年度，2021

岩崎香（研究代表者）．厚生労働省障害者総合福祉

推進事業. 障害者ピアサポーターの支援内容や配置状況の実態把握及び多様な障害者の参加を想定した障害者研修におけるツールの作成のための調査研究. 障害のある人との研修を企画運営する上での合理的配慮. 2022(令和4)年度, 2023

<https://www.mhlw.go.jp/content/001146680.pdf> (詳細版)

<https://www.mhlw.go.jp/content/001146679.pdf> (ハンディ版)

岩崎香(研究代表者). 厚生労働省障害者総合福祉推進事業. 「障害者ピアサポート研修事業における障害当事者の参画の実態把握及び方策についての調査研究. 障害者ピアサポート研修事業ガイドブック. 2023(令和5)年度, 2024

<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/001282757.pdf>